



正月の縁起物『干し柿作り』

三刀屋産直市（青空ふれあい市場）のメンバーが集まり、食品加工所として新たに造られた作業場を借りて干し柿作りが行われていました。

正月には「干し柿・カチ栗・するめ」などがお供え物として使われています。その干し柿は、渋柿を採るタイミングとその時期の天候が大切で、皮むき・紐通しを行うとすぐに風通しの良い軒下へつるすといったとても手間の掛かる作業で作られています。

特に干し柿はカビが生えないよう冷たい風に当てることが重要とのことで、順調にいれば作業から20日くらいで美味しい干し柿になるそうです。



年頭のごあいさつ

雲南市農業委員会 会長 加藤 一郎
かとう いちろう



新年明けましておめでとうござ
います。
農業者の皆様方におかれまして
は、新年を健やかにお迎えのこと
とお慶び申し上げます。

常日頃より農業委員会の活動に対しまして、ご理解、
ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年は農業委員会等に関する法律の改正に伴
う新体制となつてから3年目の節目となり、7月には
改選を迎えることとなりました。新体制では、担い手
への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・
解消など、農地利用の最適化を推進することが、農業
委員会の最も重要な業務とされています。

また、国において検討が進められている農地中間管
理事業の見直しにおいても、人・農地プランに関する
地域の話し合いに農業委員および農地利用最適化推進
委員が参画することが議論されるなど、今後、農地利
用の最適化に関する農業委員会の役割はますます重要
になってくると考えています。

こうした状況を踏まえ、農業委員と農地利用最適化
推進委員および行政等関係機関が連携を図りながら、
農業委員会に求められている役割をしっかりと果たせ
るよう、本年も精一杯取り組む所存です。

私たち農業委員会は、かけがえのない農地を未来の
世代に引き継ぐため、優良農地は守りその有効活用を
進めていくためにさまざまな問題に引き続き取り組み
ます。

最後に、これまで同様、ご指導、ご協力を賜ります
ようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様方に
とって幸多き年でありますようお願い申し上げます、新年
のごあいさついたします。

農地パトロール調査報告

雲南市農業委員会は、優良農地の確保、
農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生
防止・解消などを目的とし、毎年夏から秋
にかけて農地パトロールを行っています。
農地パトロールは、地番が記入された図
面を利用し、

- ①再生が可能な荒廃農地(1号遊休農地)
 - ②周辺農地に比べ著しく劣っている農地
(2号遊休農地)
 - ③再生利用が困難と見込まれる荒廃農地
 - ④農地が無断で宅地などに転用されてい
ないか
- を重点に調査をしています。

今年の調査結果は
下表のとおりで、①
に該当する農地は増
加しています。荒廃
農地増加は、農業従
事者の高齢化、後継
者の不在、経営の困
難化、鳥獣被害によ
る耕作放棄、機械化
に適さない農地など
の要因によるもの
で、農業者個々の力
では打開できないい
ものもあります。

国の「中山間地域
等直接支払制度」



▲状況確認をする担当地区の農業委員・推進委員



▲調査場所を地図で確認の様子

令和元年度 農地利用状況調査(農地パトロール)結果

	1号遊休農地		2号遊休農地		合 計	
	筆数	面積(m ²)	筆数	面積(m ²)	筆数	面積(m ²)
大 東 町	217	217,607	3	2,179	220	219,786
加 茂 町	77	56,662	2	651	79	57,313
木 次 町	135	89,930	9	9,024	144	98,954
三刀屋町	118	76,716	2	4,106	120	80,822
吉 田 町	31	21,435	0	0	31	21,435
掛 合 町	73	55,221	0	0	73	55,221
合 計 (前年比)	651 (83)	517,571 (54,086)	16 (▲5)	15,960 (▲3,014)	667 (78)	533,531 (51,072)

1号遊休農地とは…現に耕作されておらず(1年以上にわたって耕作されておらず)、かつ
引き続き耕作の目的に供されないと思込まれる農地(農地法第32条第
1項第1号)

2号遊休農地とは…利用の程度が周辺地域に比べ著しく劣っていると認められる農地(農地
法第32条第1号第2号)

「多面的機能支払交付金」、「人・農地プラン」
などの諸施策
を利活用し、
地域が一体と
なって食糧生
産に必要な農
地を確保する
ことが求めら
れています。



▲農地パトロールの様子



「視察研修」報告

雲南市農業委員会は10月下旬、農地パトロールなどにタブレットを活用している「みよし市農業委員会」（愛知県）を視察しました。

みよし市では、「田」については法人化が進み、ほぼ耕作されているものの、「畑」については担い手がなかなかいないことから遊休化が進んでおり、目視による利用状況調査では「筆界」が分からず正確に状況を把握することが難しいため、タブレットの導入が始まったとのことでした。

導入の経緯等の説明を受けた後、現地に移動し、実際にタブレットの操作体験をさせていただきました。画面には、地番および筆界が明示された航空写真が表示され、操作者がその農地のどの位置にいるかが示されます。加えて、前回の調査内容が検索できるようになっていました。

同市のやや丘陵地帯の地形に比べ、雲南市は中山間地であり、山間を農地パトロールする際に紙の地図では苦勞することも多く当委員会もこのような手法を整備・活用し、農地の的確な状況把握とその有効利用に資したいものだと感じた次第です。

みよし市農業委員会での説明



▲タブレットの操作体験の様子

令和2年度雲南市農業振興施策に関する意見書を市長へ提出しました

10月25日（金）、速水市長に対して雲南市農業振興施策に関する「意見書」を提出しました。

各地域で活動する農業委員が農業や農家の現状を踏まえ、農業委員活動や今後の雲南市の農業振興施策の改善のための意見として提出したものです。



意見書の内容

- ◆農業振興施策の拡充、支援について
 - ①高付加価値化、販路拡大施策の支援について
 - ②担い手確保・育成対策について
 - ③農地保全対策について
- ◆有害鳥獣対策について
- ◆畜産振興対策について など

女性委員による
野菜を使った
スイーツ作り



グランピング体験の様子



グリーンカレーとカボチャスイーツ

※グランピングテント設置、食事の準備などのような負担となる作業を宿泊者が行わなくて済むキャンプ

振興協議会の主催により春殖交流センターで開催され、雲南市農業委員会女性委員の活動として参加しました。地元野菜などの食材準備と下ごしらえ、メイン料理である「つちのと舎」のグリーンカレーと一緒に作ったり、ハロウィンにあやかっただかボチャのスイーツ作りと、イベントに参加された皆さんに「おいしかった」、「楽しかった」、「参加して良かった」と満足して帰ってもらえるよう忙しくも共に楽しい一日を過ごしました。



その日、真新しい会場の中はハロウィンの華やかな飾りで彩られていました。今回の「ご縁事業」は、「秋野菜でグリーンカレー作り〜コウノトリの郷で*グランピング体験〜」と名付け、10月26日（土）に春殖地区



農地取得下限面積が変わりました

令和元年11月19日告示

区域		下限面積
大東町・掛合町	20a	30a
加茂町・木次町・三刀屋町・吉田町	20a	30a

農業者年金で安心・豊かな老後を

～農業者の老後は国民年金だけでは不安です～

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金 + 農業者年金



○加入できる方は…

- ①国民年金第1号被保険者の方
- ②年間60日以上農業に従事している方
- ③20歳以上60歳未満の方

○積立方式 だから自分が掛けた金額は年金として **生涯もらえます**。
(仮に80歳より前に亡くなった場合でも、死亡一時金が遺族に支給されます)○保険料は **いつでも変更** できます。 **月々2万円～6万7千円**○支払った保険料は全額社会保険料控除となり所得税や住民税等の **節税** になります。

○政策支援 (保険料の国庫補助) が受けられます。

例：認定農業者等で青色申告者の35歳未満の方は1万円(5割)の補助あり

【問い合わせ先】

農業委員会またはお近くのJA各支店の農業者年金担当者へ

視察を受け入れました

7月4日 高知県香南市農業委員会
8月19日 山口県光市農業委員会
8月23日 鳥取県倉吉市農業委員会
11月14日 香川県坂出市農業委員会
12月3日 山口県下松市農業委員会
12月6日 広島県安芸高田市農業委員会



惣菜の調理の様子



石田孝子さんと土井第一社長



加茂遊学ファームは、平成10年に任意組織として発足し、平成19年に株式会社へ改編され、約130人の出荷者で運営されています。農家直営施設で、現在は町内1カ所の農産物の直売と交流の場となっています。

このお店の特徴は、地元野菜はもちろん、直売所に併設して地元の産品を使った惣菜なども調理している「味工房 旬彩」があり、出来たての惣菜なども並んでいます。また、地域の方からの要望もあり、乾物や果物、お菓子なども並んでいます。農産加工のほか、地産地消と安全安心な作物の生産をめざし、地元産の完熟たい肥や鶏糞焼却灰(ビクフリ灰)、粉殻燐炭、ぼかし、稲わらなどの地域の産品を地域に還元する取り組みも行われ、市内外の方でにぎわっています。



加茂町加茂中

株加茂遊学ファーム

おすすめ特産品

エゴマ煎餅 とうふうどん えごまそば えごま油
えごま若葉茶 (写真左上から)

耕作放棄地の利活用をしている有志の会「一粒の会」で生産されている「エゴマ」を原料に加茂遊学ファームで加工された商品です。

エゴマは健康食品として注目され血流改善や高血圧の予防や脳細胞の活性化に効果があるといわれるα-リノレン酸を多く含んでいるといわれています。



編集後記

先日、明治時代に作製された古地図が地域から出てきた。

当時の主要道である木次大東線、そして現在の国道54号や村を通る主要道は途中まで描かれ、その後開通している。そこに描かれた川は今も流れるが当時は川床が高く、雨が降ればすぐ浸かり泥状化し民家は山近くの高台に点在した。

曲がりくねった田んぼに牛を入れ、谷の奥にある田畑をも大切に管理し収穫してきた。農地を大切に、牛がいれば家族同様に扱い、こぞって農地を耕作してきた時代はいつのことだったのか。いつのときも誰しもそれに見合う収入を模索し一生懸命農作業に励んでいたことで地域がまとまり、地図に農地を表記し大切に使っていたことがうかがえる。

しかし、百数十年後の今、大規模な地域営農法人化が進み、農地を集約し大型機器に対応できるよう再度土地改良がなされ、一方で極小や異型なほ場や農家の高齢化に伴って不耕作地が増え荒廃していく。挙句の果ては山林化する中、小規模農家に対する何らかの施策を考えたとき、地域や農業を維持継続していただきたいものです。

(H)